

2004年福井県豪雨災害調査特別委員会報告書（概要）

日本集団災害医学会福井豪雨災害調査特別委員会

和藤幸弘（金沢医科大学） 中山伸一（兵庫県災害医療センター） 福山智基（金沢医科大学）

佐藤和彦（国立病院東京災害医療センター） 生田誠二（鳥取県西部広域消防） 大瀧憲夫（福井大学）

寺澤秀一（福井大学）

【概要】 2004年7月18日早朝の集中豪雨により福井県を中心に洪水にがもたらされた。被害は福井市内、足羽郡美山町、今立郡池田町、鯖江市河田町において甚大であった。

【被害】 死者・行方不明者：5名

家の全壊：39棟 半壊：99棟 一部損壊および床上浸水：3237棟

床下浸水：7634棟

【調査】

2004年14日～16日に日本集団災害医学会特別調査委員会により、福井大学医学部、福井赤十字病院、福井県第一医師会、福井地区消防本部、鯖江・丹生消防本部における情報収集と福井市、美山町、池田町、鯖江市河田地区の視察が行われた。また、委員会メンバーによる数回の被災地訪問にて情報収集の補充が行われた。

【調査結果および考察】

この災害において、医療機関の施設そのものへの被害は微小であったが、これまでに報告されていない種々の問題が明らかとなった。

1. 孤立

- ・ 陸上からのアクセスが不可能となり、浸水した地区が孤立した。
- ・ 孤立した地区の住民のうち262名は計10機のヘリコプター（福井県防災ヘリの他、応援の他県防災ヘリ、海上保安庁ヘリ）によって、ヘリポートを設置した福井県立病院、福井赤十字病院へシャトル搬送された。
浸水地域においては屋上ヘリポートが有用であった。

2. 医療機関の被害

- ・ 医療機関の被害は少なく、福井赤十字病院エネルギー棟の浸水による断続的停電、美山町診療所の停電も短時間であった。
- ・ 福井赤十字病院にはヘリコプターによる搬送のほか、近隣住民約200名が避難し、名簿作成、備蓄食料や毛布などを配布して対応した。

医療機関においても近隣住民の避難所となることがあり、平常時よりの対策が必要である。

3. 二次災害

- ・ 浸水地域で救出作業を行った救急隊員に不明の湿疹が多発した。

湿疹に関する詳しい調査診断、対策が必要である。

4. 巡回診療

- ・ 福井県のコントロール下に医師会、福井大学の医療チームが仮設診療所と巡回による診療を7月20日から26日まで行ったが、診療所を受診した患者数が225名に対して、巡回診療した患者数は1,235名であった。動員した医療従事者は延べ116名であった。

仮設診療所における診療と巡回診療の必要性（疾患／診療の効果）等について評価検討が必要である。

以上